

釜石祥雲支援学校

研究テーマ

「主体的・対話的で深い学び」による生活に活用できる力の育成

～ 教科等横断的な視点による合わせた指導の内容整理と指導の充実をとおして ～

(2年研究2年次)

1 全体研究

(1) 主題設定の理由

本校では前研究の課題で、知的障がいを対象とした教育課程の「各教科等を合わせた指導」（以下、「合わせた指導」）の内容について新学習指導要領に沿った見直しの必要性があげられた。そこで昨年度から、「主体的・対話的で深い学び」による生活に活用できる力の育成をテーマに研究を進めてきた。「新学習指導要領内容段階表」や「合わせた指導」と教科とのチェックシート等を活用しながら、「合わせた指導」で育てたい資質・能力や各教科等との関連や学部等間の系統性を明らかにし、教科等横断的な視点で内容を整理することで、生活に活用できる確かな力の育成をさらに図りたいと考える。

(2) 研究の目的

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を推進する。
- 「合わせた指導」の学習内容やねらいを整理し指導の充実を図る。
- カリキュラム・マネジメントの推進を図る。

(3) 研究の内容及び方法

- ①各教科との関連を意識した「合わせた指導」の授業づくり。→全校授業検討会
- ②「主体的・対話的で深い学び」の推進。
→各チェックシートの実施と活用
- ③新学習指導要領に示された内容やねらいを明確にし、教科との関連について意識した学習計画を行う。
→年間学習指導計画の新様式
- ④学級毎の年間での学習のつながりや系統性についての整理
→題材配列表の作成

(4) 研究のまとめ

- ①「合わせた指導」の授業について、単元設定や全体の授業計画、三観点での評価などについての全校授業検討会を行った。
- ②各発達段階での望ましい児童生徒の姿のチェックシートや職員対象の意識調査を行うなどして、職員同士での共通理解を図った。
- ③新学習指導要領の教科の目標や内容のまとめが明示され、教科の関連が分かりやすい年間学習指導計画の新様式を、リスト選択やクリックするだけで指導要領から転記できるよう記入しやすく改訂した。
- ④学級毎に年間の教科の内容一覧(題材配列表)を作成し、各教科の縦のつながりや横のつながりについて意識して学習を計画したり、実行したりすることができるようにした。

2 講演会

今年度実施なし。

3 研修会

○全校研修会

「カリキュラム・マネジメントについて」

講師：校長 外館悌

○学部研修会

・小学部低学団「摂食指導の実際」

講師：阿部真弓氏（総合教育センター）

・小学部高学団「ことばの育ちとコミュニケーション」

講師：松田輝美氏（アクティブキッズいわて）

・中学部「作業製品の開発と求められる力」

講師：山本智裕氏（まごころ支援センター釜石）

・高等部「紙すきの指導と実際」

講師：鈴木信彦氏（東和紙すき館）

・しゃくなげ分教室「“MaBee”を使って
様々なものを動かそう」

○オンライン研修会の実施（2回）

4 他の研究機関との連携

○北海道・東北地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会福島大会 第2分科会 レポート発表

○岩手県特別支援教育研究会機関紙

「いわての特別支援教育」実践報告